

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		まかるんキッズ松崎教室				公表日	R8年 1月23日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		定員超過については調整をしていく。	パート職員やボランティア等、手厚い支援が行える体制を整えていく	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		バリアフリーの必要性の高い児童がいない。児童の特性に応じて視覚支援等の実施をしている。	バリアフリーの必要なし	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		朝、昼、晩の清掃 5Sに則り行っている。	定期的な片付け、環境調整の実施	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		必要に応じて相談室の利用		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		朝、昼、夕のミーティングの実施、全体ミーティングの実施にて参画できるようにしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		ミーティングにて周知、徹底し改善を図っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		ミーティングにて周知、徹底し改善を図っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		必要に応じて実施予定	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		社内、社外の研修実施	現場の負担にならない範囲で資格取得の機会を増やしていく	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		支援プログラムを作成、公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		自発管を中心にアセスメントツールを使用し計画を作成している。	担当職員を決め、積極的な意見交換を促す場面を作る。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		ガイドラインや保護者ニーズを確認し、共通理解を促している。	特性や障害に関する理解、アセスメント能力の向上の為にスキルアップがより一層出来る体制を整える。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		1日3回のミーティングの中で共有確認している。	計画更新の際の会議に加え、支援の振り返りや再評価の実施がより必要。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		5領域のシート作成。支援記録や専門ツールを用いたアセスメントの実施。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		ガイドラインの随時確認。	新ガイドラインの理解をより一層深めるための研修や体制が必要。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		ガイドラインの随時確認。専門職員を中心としてチームを作成している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		ガイドラインの随時確認。季節や月などを意識したイベントなどに基づくプログラムの実施をしている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		必要に応じて、現場職員や専門職員の意見を求め作成し、支援を実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		ミーティングにて確認し、支援を実施している。	現場指導を行うスタッフを育成し、支援の質の向上を図る。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		ミーティングにて確認し、支援を実施している。	必要に応じて共有した内容を確認できるツールを使用する事を検討
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		モニタリングや担当会議の参考資料としているため徹底している。	より専門的知識を持った職員の育成を図る為の機会を作っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		定期的なモニタリングと誕生日付きの計画更新等を中心に実施。	環境の変化や学年の変化に対応してモニタリングの日程を調整していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8		専門職員を中心としてチームで作成している。	ガイドラインの理解を深める体制と研修の実施を行っていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		専門職員を中心としてチームで作成している。選択課題を取り入れるなど、自己の決定を促すようにしている。	選択肢の幅を持たせることができるような支援が必要。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児童発達支援管理責任者を中心に参画している。	担当職員を決め、参加を促す。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		学校の教員や相談支援専門員を含めた会議の実施、連携を実施している。	学校や関係機関と連携を取る機会を増やしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		送迎時を中心に情報公開を実施している。必要に応じて、担当者会議を学校で実施している。	近隣校との連携をより強化し、学校の教員にも参加してもらえる会議などを実施していける体制を整えていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		情報提供用紙や面談の実施を通して相互理解に努めている。	直接的な情報共有の機会を多くしていけるような関係作りが必要
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		必要に応じて書類にて情報提供している。	対象児童が今後増えていく事を踏まえ、移行先のニーズに応えることができる書式の作成を検討していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		必要に応じて実施予定。	必要に応じて実施予定。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8		外出活動などを通して、機会を提供している。	イベントの実施やその事前告知を行い、地域交流を図る事も検討。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		必要に応じて実施予定。	必要に応じて参加予定。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎時に行っている	より連携・相談しやすいような体制作りを実施していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		令和8年度より毎月の研修会企画予定	今後実施予定。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に実施している。	理解が得られていない場合に備え、確認できるツールの使用も検討
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		契約時やモニタリング時を中心に実施している。	定期的な相談会等の実施も検討
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		実施している。	理解が得られやすい様に実際の動画を使いながら説明していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		モニタリング時や担当者会議時を中心に実施している。	理解が得られやすい様に実際の動画を使いながら説明していく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		8	令和8年度より研修会と合わせて実施	保護者ニーズを確認した上で今後実施予定。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		8	マニュアルにて整備し、対応している。	マニュアルに加え、研修の実施も検討していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		8	コラム作成とSNS	発信内容の理解をし易いような工夫が必要。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		8	同意書の作成や研修も実施している。	定期的な研修の見直しや確認を実施していく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		8	視覚支援や文章など個人に合わせて意思疎通が図れるように工夫している。	必要に応じて様々なツールを使用していく。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8	正月の餅つきに参加	個人情報に考慮した上で交流する機会を作っていく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		8	定期的な見直しと改善を図り実施している。	今後も定期的な見直しや改善を図り、実施していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		8	定期的な見直しと改善を図り実施している。	今後も定期的な見直しや改善を図り、実施していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		8	契約時の確認や定期的な情報の見直しの実施をしている。	今後も定期的な見直しや改善を図り、実施していく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		8	保護者と連携をとり対応方法を決め対応している。	医師の指示書がある場合の対応について必要に応じてマニュアルの更新など検討していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		8	マニュアルやチェックリストを用いて実施している。	定期的な訓練とマニュアルの更新を実施していく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		8	HPIに公表している。	必要に応じて再度周知を図っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		8	ミーティングや各委員会にて実施している。	継続して実施していくと共に対応方法の再検討を実施していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		8	虐待や身体拘束に関する研修田対応方法について、社内外の研修を実施している。	より理解を得られるような研修内容にアップデートを検討していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		8	必要がある児童については計画書に記載	児童それぞれに対応した具体的な方法を周知しやすい体制を整えていく。